

都道府県名	奈良県
-------	-----

、学校の概要（平成15年4月現在）

新庄町立新庄北小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	4	10	16
児童数	36	35	30	29	27	34	4	195	

実践研究の概要

1. 研究主題

<p>個に応じたきめ細かな指導を通して、確かな学力を育成する ～ 算数科・少人数指導の研究～</p>
--

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年～6年までの全学年の算数 (算数は、他の教科や総合的な学習の時間などで必要とする思考力の基礎を養う教科である。また、内容の理解や好き嫌いが学年の進行につれて分極化する教科でもあるから。)</p>
--

(2) 年次計画

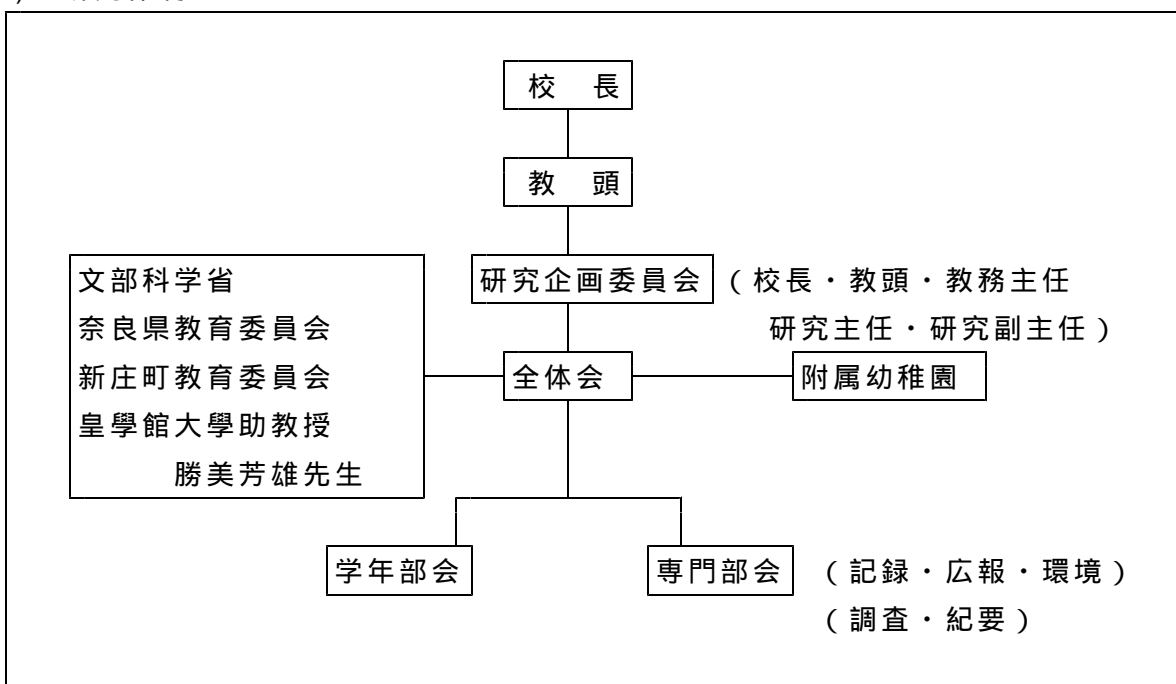
平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を育成するための方向性をさぐる。</p> <p>仮説 本校のめざす「学力」のとらえを明確にする。そして、自ら課題をもち、ねばり強く追求し続ける子どもを育成することが、学力向上につながると確信する。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数及び言語環境の整備等の研究をすすめる。</li> <li>・本校のめざす「学力」のとらえについて検討する。</li> <li>・言語環境を整え、コミュニケーション能力を育成する。</li> <li>・算数科少人数指導〔複数教員による一斉指導（TT）と分割少人数指導（機械的同数二分割及び児童選択による習熟度別）〕の研究実践を行う。</li> <li>・学びを伸ばし、広げる読書教育の充実を図る。</li> <li>・先進校の実践研究に学ぶ。</li> </ul>
--------	---

平成	<p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導を通して、確かな学力を育成する。</p> <p>仮説</p>
----	---

15 年 度	<p>自ら課題をもち、課題に向かって主体的に学習する子どもを育成することが、確かな学力の向上につながると確信する。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科少人数指導の研究を実践する。</li> </ul> <p>(ティーチング・ポートフォリオを残す。また、発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発、児童の学力の評価を生かした指導の改善を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境を整備し、地域、保護者への啓発をはかる。また、地域の教育力を取り入れ、サポートティーチャー制を導入する。</li> <li>・公開授業などを通して、積極的に研究の成果の普及に努める。</li> </ul>
--------------	--

平 成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>個に応じたきめ細かな指導を通して培った確かな学力を、社会生活に生かす力をつける。</p> <p>仮説</p> <p>自ら課題をもち、学ぶ楽しさ、できる喜び、伝える喜びを体感させることが確かな学力の向上につながると確信する。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科少人数指導の研究実践を行う。</li> </ul> <p>(ティーチング・ポートフォリオを残す。そして、発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発、児童の学力の評価を生かした指導の改善を図り、成果をまとめる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会を開催し、積極的に今までの成果の普及に努める。</li> </ul>
------------------------	---

(3) 研究体制



成果と課題

- ・本年度は研究の内容を算数科に絞って「算数科における少人数指導の研究」を進めてきた。特に具体的方策として、
  - 個に応じた指導のための授業形態の見直し
  - 教材の開発
  - 学力評価の在り方についての検討について研究を深めてきた。
- ・まず児童の実態から、一人一人にどのような力を育成することが必要か、学校内で共通理解した。その結果、次の3点を本校が目指す児童像と考え、取り組むことにした。
  - なぜだろう、どうなるだろうと考える子
  - 最後まで自分の力を出し切る子
  - 学んだことを次に生かせる子
- ・授業形態については、各学年とも多様な形態が取り組まれるようになった。一つの形にとどまらず、いくつかのパターンを複合させた形や、途中変更をしながら進めた単元もあった。その結果、児童一人一人に対応したきめ細かな指導が可能になった。今後も重要となるのは、実態を十分に把握したコース設計である。
- ・教材の開発については、個に応じた指導を進めていく上で、児童の実態に応じて教材を吟味し、開発していく重要性はいうまでもない。例えば、第3学年の「表とグラフ」の単元において、校区内において撮影したビデオから「のりものしらべ」の教材を開発し、児童の興味・関心を高めることに成果を上げた。また第6学年の単元量あたりの大きさの単元においても、生活に密着した身近なデータを課題として取り上げ、興味や関心に応じた内容にするために、たくさんの資料を教材化することができた。しかし、学年や単元によっては教材を開発する時間を十分確保できないときもあった。今後は教師間の協力体制を確立し、共同で開発した教材をティーチング・ポートフォリオとして、次年度に引き継いでいきたい。
- ・評価の工夫について、本年度は、「評価規準をより具体的に、その時間の目標に即した言葉で作ろう」と検討し評価計画を作成した。評価の方法についても綿密に計画し、準備をしてきた。評価を書き込みチェックしたり、記録として活用したりできる座席表や、振り返りシートを生かした評価など、工夫して取り組むことができた。例えば第5学年の「小数のわり算」の単元において、計算の仕方を発表し合う活動の中で、理解できたかどうかを自己評価してその結果を色カードで示し、相互評価につなげる取組も行ってきた。この取組では、自分自身の学習過程を見つめることの大切さを意識することができ、その後の振り返りシートへの記入では自らの学びの足跡を確認する記述もみられている。しかし、絶えず教師間で相談をしながら児童の学習活動の様子を綿密に把握していくことは、難しい。児童の変容を的確にとらえ、次に生かせる評価の方法については、今後の課題として取り組んでいかななくてはならない。

- ・本年度の実践を通して、本校が目指した児童像にかかわって児童の変容及び課題について主なものを挙げてみる。

発表の場を大切に、学習活動の中に取り入れてきたことで、「もっと発表してみたい」と考えたり、友達と学んだことを伝え合うことが楽しいと感じたりする児童が増えている。しかし、相手に的確に伝える表現の仕方が身に付いていない児童も多い。

新しいことを学習するとき、前の学習を思い出して解決してみようとしている姿が見られた。しかし、教師が与える課題を受け身にとらえていることが多く、自分で学習の見通しを立て、自分で課題を見出すまでには至っていない。

「わからない」とあきらめてしまうことなく、今までに学習したことを思い出して解決しようとしたり、一つの考え方だけでなく別の考え方をしてみようと、試行錯誤したりする児童の姿がみられるようになった。

振り返りシートに、自分の間違いを分析し、次の学習で留意することも入れた振り返りができるようになった。今後は、学んだことをもとに、これからの学習をどのようにしていきたいという、より主体的な展望をもった振り返りが望まれる。

学習したことを、自分の生活の中で「こんなところに使ってみよう」という見通しが立てられるようになってきた。

今後の大きな課題として、筋道立てて表現する力や、課題を自分たちで見つけ出す力、自分自身の学習の足跡を見つめ、これからの学習を展望する力などを、国語科をはじめとした各教科や「総合的な学習の時間」などを通して育てていく必要がある。次年度は研究の最終年度として、今まで育成されてきた力がより一層発揮できるよう、学習の場の設定とよりきめ細かな支援をしていきたい。

#### ・学力把握のための学校の取組について

- ・生活、学習についての児童実態調査（年1回）
- ・教研式新観点別到達度学力検査-国語・算数・社会・理科（年1回）
- ・県学力診断テスト-国語、社会、算数、理科、音楽（年1回）
- ・教育課程実施状況調査（年1回）

#### ・フロンティアスクールとしての成果の普及について

学校の説明責任を果たすため、多様な機会をとらえて、学校を開放し、成果の普及に努めている。

- ・年度初めのPTA総会において、フロンティアスクールとして本校の取組について説明する。
- ・学校だよりにおいて、少人数指導について説明する。
- ・学校評議員会において、研究の進捗状況を説明し、協力を得る。
- ・町全体研究発表会において、本校の取組の報告を予定している。（平成16年3月25日、町学校関係教職員対象）
- ・平成16年10月29日に研究発表会の開催を予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |   |  |  |    |
|----------------------|---|--|--|----|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                                | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |  |    |
| 【学校規模】               | 3学級以下                                     | 4～6学級  |  |    |
|                      | 7～9学級                                     | <input checked="" type="checkbox"/> 10～12学級    |  |    |
|                      | 13～15学級                                   | 16学級以上   |  |    |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | T・Tによる指導                                       |  |    |
|                      | その他                                       |  |  |    |
| 【研究教科】               | 国語  | 社会   | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | 理科 |
|                      | 生活  | 音楽   | 図画工作                                   | 家庭 |
|                      | 体育  | その他  |  |    |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |   | <input checked="" type="checkbox"/> 有          | 無                                      |    |